

保育活動専門員
認定制度
対象研修会
100ポイント



第65回

全国保育研究大会

山形大会

開催要項

すべての人が子どもと子育てに関わりをもつ
社会の実現をめざして

開催の趣旨

令和3年に設置された「地域における保育所・保育士等の在り方に関する検討会」(厚生労働省)での議論をはじめ、保育所・認定こども園等が地域において相談支援機能を発揮することが期待されています。関連する「児童福祉法」の改正が令和4年に予定されているほか、「こども家庭庁」が令和5年度の早い時期に創設されます。また、国では、「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」で保幼小の接続に関する議論が進められ今年度からモデル事業が実施されます。

わたしたち保育・子育て支援関係者は、さまざまな保育をめぐる制度動向や、社会福祉法人に求められる責務について常に意識し、認識を深め、保育の社会的な意義・役割をあらためて確認したうえで、日々取り組みを充実させなければなりません。

加えて、養護と教育の実践の下にこれまで培ってきた保育の営みの大切さを、いまいちど広く社会にアピールする必要があります。

こうした保育をめぐる情勢をふまえ、すべての子どもの権利と育ちを保障していく社会の実現にむけた私たち保育関係者の姿勢を広く社会に発信できるよう、多様なテーマでの研究協議を深め、先駆的、効果的な実践を学びあうことにより、全国的な保育・子育て支援の拡充につなぎ、保育実践の質の向上をめざすことを目的として、第65回全国保育研究大会をオンラインにより開催します。

主催

全国社会福祉協議会・全国保育協議会／全国保育士会
北海道・東北ブロック保育協議会、山形県保育協議会
(実施主体：全国保育協議会、山形県保育協議会)

後援

厚生労働省、内閣府、山形県、山形県社会福祉協議会 <<予定>>

期日

ライブ配信(全体会の一部・分科会)：令和4年10月20日(木)

オンデマンド配信(全体会)：令和4年10月17日(月)～28日(金)
(12日間)

定員

1,700名

- 保育所・認定こども園等関係者、保育行政関係者、保育士養成関係者、社会福祉協議会・保育協議会関係者等
- 保育・子育て支援に関心のある皆さま(一般の方も参加いただけます)

方法

Zoomとクラストリーム(動画配信サービス)を使用したオンラインによる配信
(申し込みや参加方法は、7ページをご参照ください)

参加費

会 員：15,000円／会員でない方：20,000円

日 程

《オンデマンド配信》 令和4年 **10月17日** 月 ~ **10月28日** 金 (12日間)

- 式典(全国保育協議会 表彰式等)
- 基調報告(全国保育協議会 会長)
- 行政説明(厚生労働省)
- 記念講演「コロナ禍における保育で大切にしたいこと」 講師:遠藤 利彦 氏(東京大学 教授)



コロナ禍での保育も3年目となりました。保育所等でのコロナ感染拡大の影響で行事の中止や、園児同士が距離を取り食事や遊びを行うなど、子どもの園生活も大きく変わっています。また、不安を抱える保護者への対応や、感染防止対策など、保育士等の負担が増える中で、保育現場は様々な工夫をしながら保育を行っております。

社会性をはじめとする子どもの心の発達は、人と関わることで育まれ、その中でもアタッチメントの果たす役割が大きくなっています。コロナ禍で、人と人との物理的距離の確保が求められるなかで、子どもに安心感を与えられる保育、アタッチメントの基本を再確認し学び合ひましょう。

《ライブ配信》 令和4年 **10月20日** 木

9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時
受付 9:00~ オープニング アトラクション 9:30~	全体会 (の一部)	分科会 発表・質疑応答 10:15~12:00	休 憩	分科会 講義 13:00~14:30	休 憩	分科会 グループワーク 14:45~15:45 分科会 講師まとめ・質疑応答 15:45~16:00	次期開催地 挨拶 16:00~16:10 閉会挨拶 16:15終了

ライブ配信 10月20日(木) 10:00~16:15

09:00 ~	受 付
09:30 ~	オープニングアトラクション ● 山形の郷土と子どもたち 出演:Youtuber たつたいtatsutai & めんごい子ども達 山形県大石田町「地域おこし協力隊*1」として、神奈川県よりご家族で転居、大石田賑わい拠点施設「KOE no KURA」で地域おこし支援を行いながら、大石田町の地域密着YouTuberとして活躍、大石田町を紹介しながら冬は200cmを超える雪でカマクラお泊り、大石田を満喫しているたつたいさんが、保育園行事に突撃?! 子ども達と一緒に遊び“実録”子ども達と山形の地域文化を紹介します。「やまがたお楽しみ」もあるから、ぜひ見てね!! (*^^)v  ※1. 地域おこし協力隊は、都市地域から過疎地域等の条件不利地域に住民票を異動し、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこし支援や、農林水産業への従事、住民支援などの「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を図る取組です。
10:00 ~ 10:15	開 会 ● 開会挨拶 ● 大会宣言 等 ※左記プログラムはオンデマンド配信も行います。
10:15 ~ 12:00	分科会 ● 発表(3組) ● 参加者からの質疑・応答
12:00 ~ 13:00	休憩 [シークレット企画 プレゼンター:山形県保育協議会] 当日のお楽しみ
13:00 ~ 14:30	分科会 ● 講師による講義
14:30 ~ 14:45	休 憩
14:45 ~ 16:00	分科会 ● グループディスカッション ● 講師によるまとめ・質疑応答
16:00 ~	次期開催地(大分県)挨拶 閉会挨拶
16:15	ライブ配信プログラム終了

分科会プログラムについて

- ▶ 全保協の将来ビジョンに示した5つの取り組みの 카테고리 をもとに、分科会を構成します。
- ▶ 分科会は、令和元～4年度で設定された「共通研究テーマ」による意見発表を中心に研究・協議する分科会と、全国保育協議会の企画により開催する分科会、さらにはフリー発表分科会の3種で構成します。
- ▶ 分科会会場ごとに参加定員を設定し、先着順で受け付けます^(注)。お申し込みにあたっては、異なる分科会を第3希望までご入力ください。第3希望までのご入力がない場合、当該分科会が満員の場合は、定員に空きのある他の分科会に割り振る場合がありますので、あらかじめご了承ください。

- ▶ 本大会の分科会においては、グループディスカッションを実施いたします。音声およびビデオを使用して分科会へのご参加をお願いいたします。ただし、視聴機器の都合により、グループディスカッションに参加できない場合にも分科会にはお申し込みいただけます。

(注) 受付は、参加登録が完了した順に、名鉄観光サービス(株)(旅行代理店)から返信する申込完了メールの受信をもって受付完了といたします(参加登録が完了した段階では受付完了となりませんので、ご注意ください)。

カテゴリー

1

子どもの育ちを保障する

保育所・認定こども園等の大きな役割は、子ども自身が自ら持っている発達する力を活かし、側面的に支援することとおして、その子どもの発達を保障することにあります。子どもの発達支援を中心に据えた保育を展開するために、質の高い保育について研究を深め、また、その保育を実践する人材の育成、研修の充実に取り組みます。

第1
分科会

新たな時代の保育実践～すべての子どもにむけて～

(意見発表・講義・演習)

■ 助言・指導／^{おおがた}大方 ^{みか}美香 氏 (大阪総合保育大学 教授)

子ども・子育て支援新制度では、「保育の必要性(の認定)」に基づいて、保育が提供されています。また、学校および児童福祉施設としての法的位置づけを合わせ持つ幼保連携型認定こども園が創設され、保育が提供されています。

保育所は、保育所保育指針にもとづき、児童福祉施設として、各保育所における創意工夫のもと、保育実践をすすめています。同時に、児童福祉施設ならびに学校である幼保連携型認定こども園では、保育所保育指針を踏まえた「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に基づき、保育実践が展開されています。

本テーマでは、上記保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領のもと、子ども一人ひとりの健やかな育ちを保障し、保育の質を向上していくための手法や、さらに今後の保育をめぐる動きのなかで大切にすべき保育実践の視点について研究を深めます。

第2
分科会

配慮を要する子どもや家庭への支援にむけて

(意見発表・講義・演習)

■ 助言・指導／^{まつい}松井 ^{ごうた}剛太 氏 (香川大学 准教授)

保育所・認定こども園等では、「配慮を要する子ども」が増えていることが指摘されています。また保護者自身が生活面等において何らかの課題をもち、子育てに困難が生じるケースも増えています。多様なニーズを抱えた子どもとその保護者を理解し、保育の専門性を活かした支援を行うことは、保育所・認定こども園等の大きな役割の一つです。

本テーマでは、インクルーシブ保育の視点から、障害の有無にかかわらず、配慮を要する子どもを含めたすべての子どもを、分け隔てなく一緒に保育し、すべての子どもや保護者に対して、保育・子育て支援関係者としていかに寄り添い、かわり、支援をおこなうべきかについて、研究を深めます。

日程

カテゴリー

参加申し込みについて

第3 分科会

保育者の資質向上を図る (意見発表・講義・演習)

■ 助言・指導／^{なす}那須 ^{のぶき}信樹氏 (中村学園大学 教授)

保育所・認定こども園等における今日の状況として、職員の就業形態や雇用形態の多様化があげられます。そのため、職員間の連携、チームワークの形成や、職場全体としてのスキルアップに一層留意する必要があります。

平成29年度からは「保育士等の処遇改善」と関連して、保育士の技能・経験に着目したキャリアアップの仕組みが示され、さらなる人材育成への取り組みが求められます。

本テーマでは、多様な保育ニーズに応えるため、内外の研修受講や情報共有のあり方、保育者の自己評価等、職員の資質向上にむけた効果的・具体的な実践とともに、今後、保育者自身にもとめられる資質向上のあり方について研究を深めます。

カテゴリー

2

子育て家族を支援する

子どもが心身ともに豊かに成長するためには、子どもと家庭を一体的に捉えて、その家庭を支援することが必要です。保育所・認定こども園等は、多様化する働き方と子育て家庭のニーズに応えるための機能を充実し、子育て支援の拠点として、すべての子育て家庭を対象とした支援を展開します。

第4 分科会

地域の子育て家庭への支援の充実にむけて

(意見発表・講義・演習)

■ 助言・指導／^{くらいし}倉石 ^{てつや}哲也氏 (武庫川女子大学 教授)

保育所保育指針においては、保育所の役割として、保護者に対する支援と地域における子育て支援が明確に位置づけられています。また、幼保連携型認定こども園は、地域の子どもやその保護者が相互の交流を行う場所を開設したり、保護者からの相談に応じたり、必要な情報の提供や助言、その他必要な援助を行うことが義務づけられています。

地域のつながりが弱まるなか、子育てに孤立感や孤独感を深めている家庭へのアプローチが、とくに重要です。

本テーマでは、地域子育て支援における保育所・認定こども園等の機能や、保育者に求められる知識や技術を、いかに地域支援に活かしていくか等、地域の子育て家庭に対する支援のあり方について、研究を深めます。

カテゴリー

3

多様な連携と協働をつくる

子育て不安や児童虐待への対応等、子どもと子育て家庭への支援は、地域社会を基盤として多面的に取り組みを充実していくことが大切です。保育所・認定こども園等は、さまざまな機関・組織・団体や住民が連携・協働して地域の保育機能を高めるための中心的存在として、役割を果たします。

第5
分科会

子どものより良い育ちにむけた関係機関とのネットワーク

(意見発表・講義・演習)

■ 助言・指導／おぐち 小口 まさのり 将典 氏 (関西福祉科学大学 准教授)

子どものより良い育ちにむけ、乳幼児期を含めた保育所・認定こども園等から小学校さらに中学校への連携は、子ども一人ひとりの成長を連続的にとらえる視点として重要です。

また、子ども・子育て支援新制度では各市町村で策定された「子ども・子育て支援事業計画(都道府県においては子ども・子育て支援事業支援計画)」に基づき事業実施が行われ、各地域の保育施策の充実化にむけては、保育・子育て支援関係者と各地域の行政機関等との連携や、信頼関係の構築が一層大切となります。

さらには、子どもの貧困に起因する課題への対応、児童虐待予防、病児・病後児保育など、保育所・認定こども園等が地域の関係各機関と連携・協働をもってすすめるべき取り組みは数多くあります。

社会福祉法人や社会福祉協議会、民生委員・児童委員等の子ども・子育て支援に関する事業者団体、当事者組織等のさまざまな組織・団体が互いに連携し合い、課題の解決にあたる共通の土台(プラットフォーム)を起点とし、個々の団体だけでは対応が難しい課題にも、より大きな力が発揮され、多様なニーズや課題に柔軟かつ迅速に対応することが可能となります。

本テーマでは、子どものより良い育ちにむけた、多様な機関との連携・協働のすすめ方や保育所・認定こども園等が果たすべき役割等について研究を深めます。

カテゴリー

4

子育て文化を育む

子どもを対象とした犯罪や虐待の増加等、子どもたちをめぐる深刻な課題が増えています。次世代を創造する子どもをかけがえのない存在として愛しみ、価値を認め、子どもや子育てに多くの人が関心をもち、私たちの未来を創造していく子どもたちを社会全体で育てていく子育て文化を、保育所・認定こども園等が拠点となって地域社会に発信していきます。

第6
分科会

「食を営む力」の基礎を培う食育の推進

(意見発表・講義・演習)

■ 助言・指導／のぐち 野口 たかのり 孝則 氏 (上越教育大学大学院 教授)

乳幼児期の食育の推進は、「食べる」ことや「いのち」への関心、さらに適切な食習慣の形成において大変重要です。また、食に関する家庭との相互理解、さらには地域子育て家庭にむけた食育実践や地域の食文化継承などの視点から、保育所・認定こども園等のみならず、家庭や地域との連携のもとで実践を進めることが必要です。

一方、保育現場では、自園調理の意義や有用性の確立ならびに、食物アレルギーをもつ子どもへの対応等も大きな課題となっています。

本テーマでは、保育所・認定こども園等での食事をおとして、「食を営む力」の基礎を培うことができるよう、保護者、家庭や地域と連携した食育の実践、食物アレルギーへの対応、食をおした保育実践のあり方等について研究を深めます。

日
程

カテゴリー

参加申し込みについて

第7 分科会

保育の社会化にむけて ～保育の営みをいかに社会に発信するか～ (意見発表・講義・演習)

■ 助言・指導／^{きたの}北野 ^{さちこ}幸子氏 (神戸大学大学院 教授)

少子化や核家族化がすすむなか、社会における人と人、とくに子どもとおとながつながる場面が少なくなり、社会における子ども・子育てへの関心低下につながっています。こうしたなか、子育て家庭や保育関係者にかぎらず、すべての人が子どもや子育てに関心をもつ取り組みが、安心して子どもを産み育てることができる社会づくりにむけて大切です。

本テーマでは、保育所・認定こども園等の地域にむけたさまざまな活動の展開により、広く地域や国民に対して子ども・子育てへの関心や保育の営みの重要性を発信し、地域全体で子育てを考えていく取り組みについて、研究を深めます。

カテゴリー

5 子育て・子育てを支援する仕組みをつくる

わが国の家族関係の給付のGDPに占める割合は諸外国のなかでも大変低い水準です。こうした環境を改善するとともに、日本の未来の社会を担う子どもを中心に、子どもたちが豊かに育つ環境を社会全体が支えていく仕組みについて研究・提言します。

第8 分科会

公立保育所・公立認定こども園等の使命と地域社会での役割 (意見発表・講義・演習)

■ 助言・指導／^{そのだ}園田 ^{いわお}巖氏 (東京都市大学 准教授)

保育・子育て支援の今日的な流れにおいては、多様なニーズに応えるべく、公立保育所・公立認定こども園等に求められる役割は増大しており、地域の子育て拠点として公立保育所・公立認定こども園等を位置づける自治体も増えています。

本テーマでは、公立保育所・公立認定こども園等における行政機関としてのネットワークを活かした関係機関との連携や、公立保育所・公立認定こども園等の果たす役割の重要性やその必要性について研究を深めます。

●特別分科会

第9 分科会

これからの保育に求められるもの(仮) (運営：全国保育協議会)

※制度動向を踏まえ、内容・講師を企画し、会報「ぜんほきょう」7月号および本会ホームページでお知らせします。

●フリー発表分科会

第10 分科会

フリー発表分科会 (運営：全国保育協議会)

- ▶希望者による自由なテーマの意見発表を聴くことができる分科会です。
- ▶多様なテーマによる発表が行われます。
- ▶録画配信で聴きたい発表を好きな順番で視聴することができます。

(録画配信時間は発表数によりますが、10月20日(木)1日間の配信を予定しております)

※フリー発表に関する要項は、会報「ぜんほきょう」4月号に同封して、会員の皆さまへ送付いたしておりますので、ご参照ください。また、全保協ホームページからもご覧いただけます。
(<https://www.zenhokyo.gr.jp/>)

参加申し込みについて

1. 参加申し込み

参加申込は専用サイトよりお申し込みください。

URL <http://www.mwt-mice.com/events/2022zenhokyo65>

参加登録のお申し込み締切 **令和4年9月2日（金）**

専用サイトへは全国保育協議会ホームページの「研修会」からもアクセスいただけます。

URL <https://www.zenhokyo.gr.jp/>

■専用サイトで、参加申し込みが完了された方には、登録いただいたメールアドレスに参加登録完了のご案内が配信されます。

注1:参加申し込み完了後、24時間以内に申込完了メールが届かない場合は、名鉄観光サービス(株)MICEセンターまで必ずご連絡ください。

申込完了メールでは、参加費振込についてご案内しております。

注2:お使いのパソコン等でセキュリティのためメールの受信拒否設定をされている方は、@mwt.co.jp ドメインからのメールが受信できるようあらかじめ設定してください。

■参加申し込みの登録操作方法は、専用サイトのトップページをご確認ください。

■締切日である**令和4年9月2日（金）**までの変更・取消は参加者ご自身にて専用サイトで変更等の操作をしてください。

■締切日以降の変更・取消は、専用サイトのお問い合わせフォームからの送信、または名鉄観光サービス(株)MICEセンターまでご連絡ください。

2. 参加費用等の振込および当日参加までの流れ

■お申し込み受付後、9月中旬を目途に参加費等の振込先等を案内いたします。

■10月3日(月)までに参加費をメールの案内に記載している口座へお振込みください。

■参加費入金確認後、10月上旬に大会資料(全体会部分)を郵送にて、「オンデマンド配信(クラストリーム)URL」「ライブ配信(Zoom)URL」「大会資料掲載URL(全プログラム)」を登録されたメールアドレスに送信いたします。**全体会プログラム関連部分(式典・基調報告・行政説明・記念講演等)は郵送にて資料をお送りいたします。**お手数ですが分科会関連部分の資料につきましては、電子データをダウンロードいただきますようお願いいたします。

■参加費入金後の参加取消は原則として返金対応を致しかねます。

3. 留意事項

■本大会の録音、録画、撮影、転用、および資料の複製・転載等は固く禁止します。

■本大会参加のためのURLやID・パスワードの再配布についても禁じます。

■システムトラブル、通信環境、接続の不具合等により本大会に参加できなかった場合は、資料の提供をもって替えさせていただきます。また、参加費の返金および動画データの提供はいたしません。

■本大会では、分科会にてグループディスカッションを実施します。視聴機器により参加が難しい場合にも参加費の一部返金等は実施いたしませんのをご了承ください。

4. お申し込みに関するお問い合わせ先

■大会参加等のお申し込み・お問い合わせ先

名鉄観光サービス(株)MICEセンター 第65回 全国保育研究大会 申込受付係まで

〒100-8983 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル

TEL. 03-3595-1121(受付時間:平日9:30~17:30)

FAX. 03-3595-1119

■大会の内容等に関するお問い合わせ先

全国保育協議会 事務局(全国社会福祉協議会 児童福祉部 寺嶋・下立)

〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル4階

TEL. 03-3581-6503

FAX. 03-3581-6509



[提供元：山形県]

個人情報の取り扱いについて

個人情報については、本会の「個人情報保護に関する方針等について」にもとづいて取り扱います（個人情報の保護に関する方針は全保協のホームページに掲載いたしております）。参加申し込みの際に登録された個人情報は、本大会の運営・管理の目的に限って使用します。

なお、本大会のお申し込み受付等に関する業務を名鉄観光サービス(株) MICE センターに委託し、実施するため、上記目的の範囲で情報を共有します。

参加者名簿の作成について

参加者、関係者間の相互連絡を目的とした「参加者名簿」を作成いたします。参加者名簿には、参加申し込みの際に登録された「都道府県・指定都市名」「施設名」「役職名」「氏名」ならびに参加される「分科会番号」を掲載いたします。なお、取り扱いにあたっては、左記「個人情報の取り扱いについて」に拠り、本大会に関係のない者への譲渡、貸与、目的外の利用を固く禁じるものとします。

全国保育協議会・全国保育士会「保育活動専門員」認定制度について

全国保育協議会および全国保育士会では、主催する大会・研修会に参加し研鑽をされている方を対象として「保育活動専門員」として認定し、申請にもとづいて認定証を発行しています。これまでに、1,778 名の方が認定を受けられています。

本制度では、大会・研修会に参加することで得られる参加ポイントと、大会等で発表を行った方に加算される発表ポイントを設定し、一定数以上のポイントとレポートを提出することによって認定証を取得することができます。本大会の参加者等にも下記のポイントが付与されます。

※「保育活動専門員」認定制度の実施要項、およびフリー発表分科会の募集案内は会報4月号に同封してお送りしています。また、全保協のホームページにも掲載していますので、ご覧ください。

本大会は認定制度の対象研修会です。[参加により取得できるポイント 100 ポイント]

※上記 100 ポイントに加え、第 1～9 分科会発表者には 200 ポイント、フリー発表分科会発表者には 50 ポイントが加算されます